

- ACS Japan Chapter President/
Governorご挨拶 P1
- American College of Surgeons (ACS)
のGovernor退任のご挨拶 P2
- 北島政樹先生を偲んで P3
- 新ACS Fellowになりました P4
- 新ACSフェローになりました P5



ACS日本支部ニュース

NEWSLETTER FROM THE JAPAN CHAPTER
OF AMERICAN COLLEGE OF SURGEONS



ACS Japan Chapter President/Governor ご挨拶

国立国際医療研究センター理事長
東京大学名誉教授

國土 典宏

Norihiro Kokudo, MD, PhD, FACS, FRCS

2019年10月よりACS Governorを拝命いたしました。ACS日本支部Presidentに続いてのGovernor就任は私にとりまして大変な名誉であり、ご推挙いただきました前Governorの矢永勝彦先生を始め歴代Governor、支部President、Secretary、Councilorそして支部会員のフェローの皆様へ改めまして厚く御礼申し上げます。ACS日本支部はACSと日本外科学会の交流と連携を促進することを目的としています。支部会費を納入しているactiveな会員だけでも275名を数え、ACSの中でもインド、メキシコ、フィリピンに次ぐ大きさの有数の支部です。日本支部Secretaryの東京大学肝胆膵外科・人工臓器移植外科教授の長谷川潔先生と協力して日本支部の発展のために全力を尽くす所存です。

さて、2019年は5月にACS Honorary Fellowの北島政樹先生が急逝されるという不幸がありました。ACS日本支部を発展させ日本のプレゼンスを高めることに尽力された北島先生のご業績に感謝し、ご冥福を改めてお祈りいたします。一方、新たに14名の新フェローが日本支部から誕生しました。2019年10月サンフランシスコで開催されたACS Clinical Congressには新フェローを含む多くの日本人が参加し、日本支部レセプションも大いに盛り上がりました(写真)。

ACSは1913年に設立された外科医と外科医療の質向上を目的とした学会で会員(Fellow)数は約82,000で世界最大の外科医の学会です。我々日本人を含め6,600人の外国人会員がいます。米国内に65、カナダ国内に2、その他46ヶ国にChapter(支部)が存在します。日本はオーストラリア、ニュージーランド、タイ、韓国、中国(香港)、フィリピン、パキスタンとともにRegion 16に属します。ACSは国際展開にも積極的で特に途上国への外科治療(Outreach)や教育支援に力を入れています。今回の新型コロナウイルス流行下の外科診療の在り方についてもHPなどで多くの貴重な情報を発信しています。わが国の外科医にとってACSは米国だけでなく世界の外科医と交流するための有力なプラットフォームであり、特に年1回のClinical Congressは最先端の情報や外科関連製品に接するまたとない機会であると思います。Region 16の年次ミーティングを今年は日本が担当し、実は北川雄光先生が会頭を務められる第120回日本外科学会学術集会の会期中に予定していたのですが、新型コロナウイルス感染症でオンライン開催となったために中止せざるを得ない状況となりました。来年以降に主催できるチャンスを改めて追及したいと思っています。

新型コロナウイルスの流行はまだまだ終息の兆しさえ見せておらず、米国の感染状況は特に深刻です。本年10月にシカゴで予定されていたClinical Congressもvirtual meetingになるという通知が先日届きました。いろいろ制限がありますが、会員の皆様には何らかの形で参加いただければ幸いです。日本支部総会は4月に開催することができませんでしたが、8月の第120回日本外科学会総会会期中にオンラインで開催したいと思います。詳細が決まりましたら改めてご案内いたしますのでご参加よろしくお祈りいたします。新型コロナウイルスに負けずACS日本支部も頑張りたいと思っておりますのでご協力よろしくお祈り申し上げます。



ACS日本支部レセプション集合写真：2019年10月サンフランシスコにて

略歴

- 1981年 東京大学医学部医学科卒業、同第二外科研修医
- 1987年 東京大学第二外科助手
- 1989～91年 米国ミシガン大学外科留学
- 1995年～ 癌研究会附属病院 外科医員(2001年 同医長)
- 2001年～ 東京大学肝胆膵外科 助教授
- 2007年～ 東京大学肝胆膵外科・人工臓器移植外科 教授
- 2017年～ 国立研究開発法人国立国際医療研究センター 理事長(現在に至る)
- 2012～16年 日本外科学会理事長、
- 2018年 第118回日本外科学会会頭
- 2015～17年 A-PHPBA President



American College of Surgeons (ACS) の Governor 退任のご挨拶

国際医療福祉大学大学院教授
東京慈恵会医科大学名誉教授

矢永 勝彦

Katsuhiko Yanaga, MD, PhD, FACS

2013年10月から2期にわたり American College of Surgeons (ACS) の第6代の Governor を務め、2019年10月に任期満了にて退任させていただきました。大変名誉な機会をいただき、皆様のご高配に心より感謝いたします。

私は1996年に San Francisco で FACS を授与された後、ACS Clinical Congress には時々演題を出しておりましたが、前任の故谷川允彦先生から2011年11月に日本支部長を引き継ぎ、2018年4月までの4年半は谷川先生同様、Governor と日本支部長を兼任しました。以来 ACS Clinical Congress は皆勤で、現在も International Relations Committee の Executive member と Region 16 (Asia Australasia) Chair を務めておりますが、これまで本当に多くの貴重な経験をさせていただきました。

幸い、会員の皆様のご支援により毎年の日本人の FACS 授与者数は以下の通り、世界的に上位で推移してきました。

2013年	28人	(第3位)
2014年	32人	(第2位)
2015年	24人	(第4位)
2016年	32人	(第3位)
2017年	32人	(第3位)
2018年	31人	(第3位)
2019年	14人	

またこの間、日本からの Honorary fellow として2012年に東北大学の松野正紀先生、2016年に九州大学の水田祥代先生、2017年に東京大学の幕内雅敏先生、2018年に名古屋大学の中尾昭公先生と順天堂大学の宮野武先生、2019年に藤田保健衛生大学の加藤庸子先生が推戴されました。このように大幅な fellow の増加と2016年以来毎年 Honorary fellow が推戴される時期に Governor を務めさせていただきましたことを、大変幸運であったと感じております。

さらに、恒例の4月の日本外科学会学術集会期間中に開催する日本支部例会には、以下の ACS President/Vice President を外科学会会頭らと協力して招致し、ACS Presidential Lecture を実現すると共に、日本支部で格調高い講演を拝聴することができました。

2012年	Patricia Numann 先生	(President)
2013年	Brent Eastman 先生	(President)
2014年	Carlos A. Pellegrini 先生	(President)
2015年	Kenneth Mattox 先生	(Vice President)
2016年	Courtney Townsend 先生	(Vice President)

2017年 Courtney Townsend 先生
(President)

2018年 Barbara Bass 先生
(President)

2019年 Ronald V. Maier 先生
(President)

そして私の後任の第7代 Governor には、ACS 本部から日本支部長の国際医療研究センターの国土典宏理事長

が指名され、安心して任務を終えることができました(写真)。これまでの皆様のご支援に心より感謝申し上げます。

日本支部は今や諸外国が認める ACS の一大支部に成長いたしました。今後も国土典宏 Governor/日本支部長のリーダーシップの下、日本支部が益々発展しますよう祈念し、Governor 退任のご挨拶とさせていただきます。



2019年 ACS Clinical Congress にて、新旧の Governor で新任の ACS President, Dr. Valerie W. Rusch を囲んで

略歴

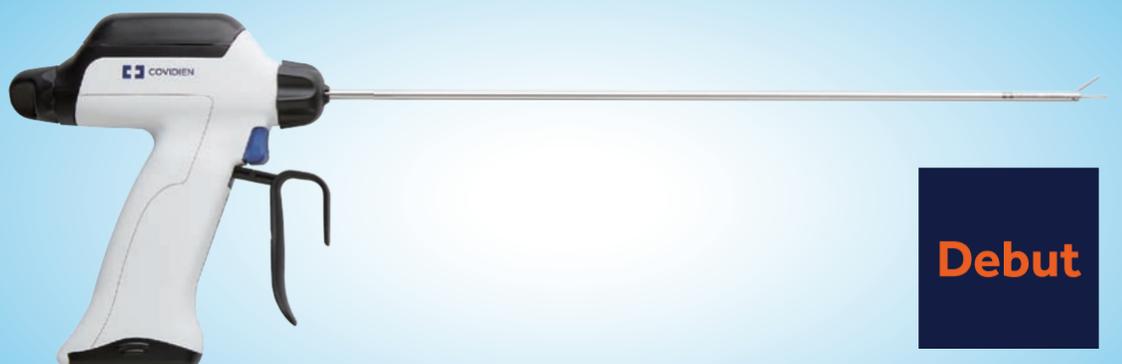
1979年3月	九州大学医学部医学科卒
1979年6月	九州大学附属病院研修医(第二外科)
1980年7月	米国ハーネマン医科大学・関連病院一般外科レジデント
1986年4月	九州大学医学部附属病院助手(第二外科)
1986年7月	米国ピッツバーグ大学医員(移植外科部門)
1988年1月	米国ピッツバーグ大学助教授(外科)
1989年8月	九州大学医学部助手(第二外科)
1996年10月	Fellow, American College of Surgeons
1997年10月	九州大学医学部附属病院講師(第二外科)
1998年4月	松山赤十字病院外科部長
2000年4月	長崎大学医学部講師(第二外科)
2003年4月	東京慈恵会医科大学外科学講座教授(消化器外科分野担当)
2011年11月	American College of Surgeons 日本支部長
2013年10月	Governor-at-Large, American College of Surgeons
2014年10月	Member, ACS International Relations Committee
2017年10月	Chair, ACS Region 16 (Asia-Australasia) Executive member, ACS International Relations Committee Chair, Subcommittee of Education, Quality and Communication
2018年4月	American College of Surgeons 日本支部長退任
2018年5月	Chair, International Relations Committee, Society of Surgery of the Alimentary Tract
2019年10月	Governor-at-Large, American College of Surgeons 退任
2020年4月	国際医療福祉大学大学院教授 東京慈恵会医科大学名誉教授

CORDLESS FREEDOM+

コードレス新時代

Sonicision™
カーブドジョー コードレスシステム

販売名: Sonicision カーブドジョー コードレスシステム
医療機器承認番号: 30200BZX00033000
クラス: III
©2020 Medtronic



Debut

Medtronic



北島政樹先生を偲んで

慶應義塾大学医学部
外科学

北川 雄光

Yuko Kigatawa, MD, PhD, FACS

令和元年5月21日、恩師北島政樹先生が急逝されました。直前にブラハで開催された国際胃癌学会で一緒に、お元気を拝見していただけに突然のことで言葉を喪いました。小生が会頭を務めさせていただく第120回日本外科学会定期学術集会と、同窓会長として北島先生にご指導いただいている慶應義塾大学医学部外科学教室100年事業が1年後に迫るなか、いろいろとご相談させていただいていた矢先のこと、ただ茫然自失するばかりでした。

北島先生は、1991年5月に、当時チーフレジデントであった私たちの前に新任の主任教授として颯爽と登場されました。圧倒的な先見性とリーダーシップ、決断力を発揮し、赴任後ただちに内視鏡外科を導入するとともに、生体肝移植の立ち上げに着手されました。外科腫瘍学では臨床の課題解決に根ざす基礎研究を重視され、若手の私にもセンチネルリンパ節ナビゲーション手術の研究に取り組む機会をいただきました。2000年4月、記念す

べき第100回日本外科学会総会では会長として「未来のための今 - Act now for the future」のメインテーマを掲げました。アジアで初めて導入したda Vinciを用いて、米国とも接続してライブデモンストレーションを行うなど数多くの先進的な取り組みを実現できました。あの頃は教室員全員が自由に伸び伸びと自分のやりたいことに邁進出来る夢のような時代でした。多様な人材のそれぞれの才能を見極め、それぞれに大きなチャンスを与え、組織を大きくするというリーダーのあり方を示していただきました。ACSでは2009年10月にHonorary Fellowsとなりましたが、米国では2002年10月から13年間の長きにわたりThe New England Journal of Medicineの編集委員を務めるなど、数多くの輝かしい学術的功績を築き上げられました。2007年に北島先生の跡を継いで教室運営をすることになった私は、偉大な恩師に少しでも近づかなければならないという思いからとてつもない重圧に苛まれま



した。そんな時、北島先生は「元気で明るく健康であればそれでいい。好きなようにやったらきつとうまく行く、大丈夫」と仰ってその分厚い手で背中をポンと叩いてくださいました。あの手の温かさ、心地よい重みが今も忘れられません。私にとって先生は「世界の北島政樹」とは別の、身近な兄のような、父のような存在でした。名誉教授となられてから、国際医療福祉大学医学部創設に奔走され、また日本医療研究開発機

構で沢山のプロジェクトを推進し、世界中の外科医を励ましながら活躍されました。先生が高い空の上から見守ってくださっていると信じて、これからも「未来のための今」をしっかり生きて行きたいと思います。先生への深い感謝の気持ちを込めて、心からご冥福をお祈り申し上げます。



故北島政樹先生

Masaki Kitajima, M.D.,
F.A.C.S.(hon), F.R.C.S.(hon),
A.S.A.(hon)

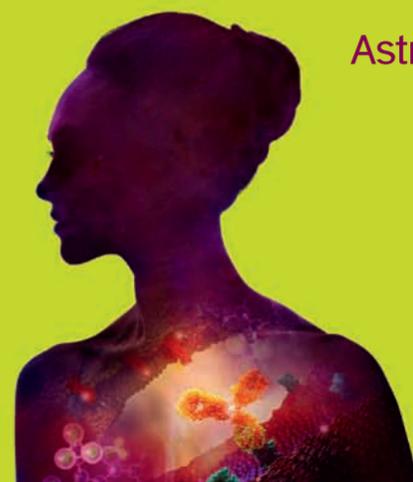
略歴

昭和41年3月	慶應義塾大学医学部卒業
昭和48年5月	足利赤十字病院外科部長
昭和50年4月	Harvard Medical School / Massachusetts General Hospital 外科フェロー
平成元年4月	杏林大学第一外科教授
平成3年5月	慶應義塾大学外科学教室教授
平成5年10月	Fellow of American College of Surgeons
平成11年10月	慶應義塾大学病院病院長
平成13年7月	慶應義塾大学医学部医学部長
平成19年4月	慶應義塾大学名誉教授
平成19年4月	国際医療福祉大学副学長・三田病院病院長
平成21年7月	国際医療福祉大学学長
平成21年10月	Honorary Fellow of American College of Surgeons
平成28年4月	国際医療大学副理事長・名誉学長
平成31年4月	国際医療福祉大学熱海病院総病院長
令和元年5月21日	ご逝去

What science can do

オンコロジー併用療法

アストラゼネカは、バイオ医薬品と低分子医薬品を併用することで、がん細胞を直接攻撃すると同時に、身体の自己免疫システムを活性化することにより、がん細胞の細胞死を誘発する治療法の開発に取り組んでいます。



AstraZeneca



東北大学大学院小児外科学分野

仁尾 正記

Masaki Nio, MD, PhD, FACS

新 ACS Fellow になりました

この度 ACS の Fellow にお加えいただき、たいへん光栄に存じております。

2年ほど前に、矢永勝彦先生にこの制度をご紹介いただき、一介の小児外科医が参加してよいのだろうかと少し迷ったのですが、日本の小児外科医も何名か fellow に加わっていることを知り、小児外科以外の広い世界のことを勉強させていただくよい機会と考え、応募させていただきました。慣れない手続きに多少手間取りましたが、なんとか完了し、またご推薦を頂くことができ、convocation ceremony への参加の運びとなった次第です。

昨年、サンフランシスコで開催された ACS congress での ceremony に出席し、たいへん厳かな雰囲気の中での式で感銘を受けました。サンフランシスコは、かつてロサンゼルスに留学していたころに車で訪れて以来、今回が二度目の訪問でした。世界各国から多くの initiates が集い、また多くの家族や友人も参加する賑やかな会でもありました。あらかじめガウンも予約しており、張り切って参加したのですが、初めての体験でもあり、誇らしいような、あるいは気恥ずかしいような感じが相半ばする独特の感覚を覚えました。それでも、たいへんよ

い経験をさせていただいたと感じております。

また、翌日には、会場近くのホテルで開催された ACS Japan Chapter Cocktail Reception にもお誘いいただき、国内外の高名な先生方と一緒にする機会にも恵まれました。さらに、その二次会では、親しくしている仲間たちに新 ACS Fellow を祝ってもらい、夜遅くまで楽しいひと時を過ごすことができ、忘れられないサンフランシスコの夜となりました。

外科の中にあつて小児外科は日本でもたいへん小さな領域ですが、世界でも同様で、巨大な congress にあつて小児外科医の集団はやはりごく限られたものでした。それでもみな大きな誇りを抱いて参加していることが体感され、私自身も身が引き締まる思いでした。また、たいへんレベルの高い学術的議論の場として、大いに触発され勉強にもなりました。

日米の医療のシステムの違い、とくに保険制度が異なることにも関連して、経済的な観点に主眼を置く研究が多くの興味を引いているところなどは国柄の違いを感じ、それはそれで面白かったのですが、反対に日本が抱えている、医師

不足・外科医不足や少子高齢化などの問題もさらにグローバルな視点で多面的に捉えると、新たな解決策が見つかるのではなどとも感じました。

また、小児外科医が ACS に参加することの意味を少し考えてみました。小児外科という小さい community にももちろん国際学会があり、世界との交流は行われている訳ですが、今回その世界の仲間をさらに増やす機会を得たことはたいへん喜ばしいことです。ただ、それ以上に、多くの国々・地域から領域の枠を越えたあらゆる分野の外科医が一堂に会する機会が貴重なものと感じ、その中の一員として参加することにこそむしろ大きな意義があるのだらうと思いました。

私はあまり若くないのですが、これからは大勢の若い日本人小児外科医がこ

の中に入って、世界との交流を深めていくことが、日本の小児外科学の発展に、そして外科学や外科医療全体の発展にもたいへん大きな役割を果たすであろうと感じる機会となりました。

今回サンフランシスコには4日間滞在して、最後の半日だけひとりで市内観光を試みました。ずっと昔に訪れた Fisherman's Wharf でビールとクラムチャウダーを味わい、観光船に乗って Golden Gate Bridge や Alcatraz 島を眺めるといった程度でしたが、自分の思い出の中のサンフランシスコの光景とどこも変わっていない気がして、私にとっては感慨深い旅ともなりました。

矢永先生、国土先生はじめ ACS Japan Chapter の先生方にあらためて感謝いたします。

略歴

1981年3月	東北大学医学部卒業
1987年3月	東北大学大学院医学系研究科博士課程修了 学位取得(医学博士)
1990年8月	東北大学小児外科助手
1991年7月	南カリフォルニア大学・ロサンゼルス小児病院フェロー
1999年1月	東北大学小児外科助教授(2003年8月31日まで)
2003年9月	宮城県立こども病院外科部長(2008年5月31日まで)
2008年6月	東北大学大学院小児外科学分野教授(現職)
	東北大学病院小児外科・小児腫瘍外科科長(現職)
	東北大学病院小児医療センター長(現職)

TERUMO

スプレーなら、狙いやすい



癒着防止吸収性バリア

Ad Spray

一般名称:癒着防止吸収性バリア 販売名:アドスプレー 医療機器承認番号:22800BZX00234

製造販売業者 テルモ株式会社 〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷2-44-1 www.terumo.co.jp

TERUMO、Ad Spray はテルモ株式会社の商標です。テルモ、アドスプレーはテルモ株式会社の登録商標です。©テルモ株式会社 2018年1月



新 ACS フェローになりました



■ 兵庫県立こども病院 小児外科

横井 暁子

Akiko Yokoi, MD, PhD, FACS

このたびは ACS fellow として皆様のお仲間に入れていただきありがとうございます。ごぞいます。

2019年10月26日にサンフランシスコの Moscone Center で開催された Convocation Ceremony に参加させていただきました。オーケストラの“威風堂々”が流れる中、ガウンを着て拍手をいただきながら荘厳な雰囲気の中で入場し、米国では ACS の fellow になるということは一流 surgeon と認められたという大変光栄なことなのだと思いました。そして President の Dr. Rusch のスピーチで、今回の new fellow は、“general surgeon ではない”、“米国以外の国・地域”、“女性”、の割合が例年よりも多かったということを知り、私のような日本の女性小児外科医に ACS から fellow になりませんか、という invitation をいただいた理由がなんとなくわかった気がいたしました。

私が米国に留学したのは、大学院を卒業して京都大学移植外科の医員として働いていた時でした。夫が先にニューヨークのコロンビア大学で基礎研究者として単身留学してしまい、娘を早朝から夜中まで預けて働いておりましたので、“娘が自閉症になる”と見かねた田中紘一教授に留学の許可をいただきました。当時コロンビア大学には、胆道閉鎖症の葛西手術を米国で広めた高名な Dr. Peter Altman がおられましたので、直接メールを送って

みましたところ、observer としてならいつでもどうぞということでした。夫の家族として J2 visa ですぐに渡米することはできましたので、sabbatical leave のつもりで渡米いたしました。当初は手術室や病棟をうろろし、カンファレンスに参加するだけの日々でした。しかし、observer の身分では scrub in は許可されず、システムの違いはありましたが、手術は特に珍しいことをしているわけではなく、見てだけの生活はつまらなくなり、現在シカゴ大学小児外科の Prof. Jessica Kandel の Lab にも出入りをさせていただくことになりました。彼女は小児がんの研究をされていて、私が大学院時代に免疫学教室で研究していたと言うと、Lab に welcome と言われましたが、J2 visa では pos-doc でも働けないので、working permission を申請していました。しかしそれが下りる前に田中先生から助手として帰ってこいと呼ばれてしまい、一旦帰国しましたが、夫はまだ帰国するつもりはなかったので、娘と夫に同情した田中先生から助手休職で再度留学してよいと言っていました。そこで、今度は Dr. Kandel に research associate として雇ってもらえないかとメールしたところ、すぐに J1 visa をとれるように手続きしていただき、晴れて研究生活を送る留学となりました。彼女の Lab では、小児外科のレジデントやフェローたちが、研究

の経験は次のフェローやスタッフへのマッチングに有利になるということで、臨床の傍ら研究をしており、今は偉くなった彼らと知り合いになれたのも有意義でした。Dr. Kandel には、帰国後も英語論文の添削をしていただいたり、米国小児外科学会 (APSA) 会員になるサポートをしていただいたり、何か臨床的な疑問があればメールで問い合わせると素早く返事をいただけたりと現在に至るまで大変お世話になっております。このたびの ACS fellow の申請もサポートをしていただき、大変喜んでいただきました。

私は現在兵庫県立こども病院で働いております。小児外科領域では、稀少疾患が多く、なかなか高いエビデンスに基づいた臨床というのが難しく、どのようにエビデンスに基づいた医療を提供することができるか、というのが大きな課題です。医療の質の改善がどのようになされているか、ACS の NSQIP には非常に興味があります。big data がどのように解析され、また

個々の病院の clinical practice にどのように還元されているのか、とりわけ稀少疾患の小児外科領域において、実際のデータ活用の方策、問題点も含めてどういう方向性が論じられているのかを是非学びたいと思っています。

また、ACS では多くの女性外科医が重要なポジションを占めておられるようです。ただそれも多大なる苦労があった末だと思われます。私自身も女性外科医として後進の指導にあたる難しさを直面するような年齢になり、米国の女性外科医がどのように切り抜けておられるのか、文化の違いも大きいながら、何かヒントになるようなことがあれば、と期待しています。

さらに、この ACS Japan Chapter を通じて、日本の成人外科領域でご活躍されておられる一流の先生方と情報交換をさせていただけることも、成人外科との交流が全くない小児病院で日々診療をしている者としては、大変ありがたいです。

今後とも何卒よろしく願い申し上げます。

略歴

1990年3月	京都大学医学部医学科卒業
2000年1月	京都大学医学研究科博士課程修了
1990年6月	京都大学医学部附属病院外科
1991年4月	兵庫県立尼崎病院外科
1998年4月	京都大学医学部附属病院移植外科 医員
1999年11月	Babies & Children's Hospital of New York, Columbia University, Department of Pediatric Surgery 留学 (observer)
2000年12月	京都大学医学部附属病院移植外科 助手
2001年11月	Research fellow at Columbia University College of Physicians & Surgeons, Department of Pediatric Surgery
2003年4月	大阪赤十字病院外科
2005年4月より	兵庫県立こども病院小児外科



Better Health, Brighter Future

タケダから、世界中の人々へ。より健やかで輝かしい明日を。

武田薬品工業株式会社
www.takeda.com/jp





事務局 便り



本年1月あたりから始まったCOVID-19騒動は当初の想定以上に深刻で、ACS日本支部関連で言うと、4月の日本外科学会会期中の日本支部会が外科学会そのものの延期のため、中止となってしまいました。会員が年に1度国内で集まる貴重な機会を逸してしまったのは残念でした。その状況にあって、今年も新たに16名の先生方がFACS取得に申請いただきました。ほぼ昨年と同数であり、日本人外科医のACSへの関心が維持されているのは心強いものです。

申請者には本部の指針に従い、日本支部のほうでインタビューさせていただくのが恒例となっており、通常外科学会の会期中、会場内の一室をお借りして実施してきたが、学会の延期と緊急事態宣言のため、今年はWeb面談もしくは電話によるインタビューとさせていただきます。ちなみにこのインタビュー、申請者の方に日程調整の連絡をすると、みなさん、ちょっと身構えるようで、中には英語でやるんですか、と聞かれることもあるが、そのような大変なことを当方がわざわざやるはずもなく、いくつか決まった中から質問するだけで、一番重要と思われる要件はACSの年会費を払い続けること、ACS本会にactiveに参加すること（つまり発表なり座長なりの役を担い、学会を盛り上げてほしいということであろう）の2点に尽きます。インタビュー結果で何らかの判断をすることはな

いので、今後申請される方もご安心いただきたいと思います。今回のインタビューでは私自身の興味もあって、なぜFACSに申請しようと思ったのですかと聞くようにしたが、皆さん決まって、「アメリカの大きな学会で最新の知識を得たい」とか「国際交流を積極的に進めたい」というような前向きな答えが返ってきて、非常に心強く頼もしく感じた次第です。

国際交流という意味ではACS本会中に現地で開催される日本支部のカクテルパーティーの役割は大きく、申請者の方にも強く参加をお勧めしてきました。しかし、残念ながら、本稿校了直前にACS本会（シカゴ）がVirtual開催となることが決定され、カクテルパーティーも今はやりのWeb飲み会？というわけにはいかず、中止とさせていただきます。来年こそはワシントンでのカクテルパーティーにて今年と来年、2年分の新FACSの先生方におめにかかりたいものです。

ACS日本支部事務局 長谷川 潔

〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学肝胆膵外科医局内

TEL.03-3815-5411 FAX.03-5684-3989 e-mail:acsjpn-admin@umin.ac.jp

New Fellows

新入会員名簿

Masamichi Hayashi 林 真路 (名古屋大学大学院医学系研究科)
Sena Iwamura 岩村 宣重 (京都大学肝胆膵・移植外科)
Kazuo Koyanagi 小柳 和夫 (東海大学医学部消化器外科)
Tomoki Makino 牧野 知紀 (大阪大学大学院医学系研究科)
Masayuki Nagahashi 永橋 昌幸 (新潟大学消化器・一般外科)
Masaki Nio 仁尾 正記 (東北大学小児外科)
Wataru Okajima 岡島 航 (綾部市立病院一般・消化器外科)

Katsunori Sakamoto 坂元 克考 (愛媛大学大学院医学系研究科)
Tatsushi Suwa 諏訪 達志 (柏厚生総合病院)
Kenichiro Uchida 内田 健一郎 (大阪市立大学医学部附属病院)
Takahiro Yamanashi 山梨 高広 (北里大学下部消化管外科学)
Kosho Yamanouchi 山之内 孝彰 (長崎大学移植・消化器外科)
Siyuan Yao 姚 思遠 (京都大学肝胆膵・移植外科)
Akiko Yokoi 横井 暁子 (兵庫県立こども病院)



ACS日本支部レセプション新フェロー集合写真
 日本外科学会理事長 森正樹先生も駆けつけてくださりました：2019年10月サンフランシスコにて

OLYMPUS

Reborn Flex Gives You Insight

ジョイスティックハンドルの採用

- ・直感的な操作とスムーズな視野展開が可能
- ・エルゴノミックデザインにより、両手でも片手でも安定した操作が可能

ホールド機能

- ・快適でスムーズな操作性を実現



製造販売元 オリンパスメディカルシステムズ株式会社
 販売名 ENDOEYE FLEX 3D 先端湾曲ビデオスコープ OLYMPUS LTF-S300-10-3D 229ABBZ00107000
 医療機器番号

HD画質で3D観察が可能な先端湾曲ビデオスコープ

オリンパス株式会社

ENDOEYE
FLEX 3D

www.olympus.co.jp